【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和２年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	唐津市立厳木小学校

1　前年度 評価結果の概要	○業務の見直しを大胆に行いながら教育課程の編成を行い、スマートな教育活動が展開できるようにする必要がある。 ○学力向上と表現力育成を目指して、教科指導や様々な領域での指導に更なる工夫が必要である。 ○今年度も児童の活躍の機会を保障し、児童の考えを生かして自主的活動につなげながら主体的・創造的に活動する子どもの育成を目指した教育活動を展開していくことが大切である。
2　学校教育目標	豊かな心を培い、夢に向かって、主体的・創造的に活動する子どもの育成
3　本年度の重点目標	①主体的に自分の考えを形成し、表現する力を育むための授業の工夫　②子どもたちの学習習慣の確立を図る　③子どもたちの考えが生かせる場面を設定し、主体的・創造的に活動できる力を育てる ④心の教育（一人一人を大切にする人権教育の深化と充実）　⑤地域人材の活用、地域での体験活動の推進　⑥校内研究、職員研修の充実、業務改善と働き方改革の推進

4　重点取組内容・成果指標　　5　最終評価

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上アクションプラン（個人用）の10項目の平均点が4ポイント中３．５ポイント以上を達成した教師80％以上	・毎月末にチェックシートを記入し、指導法を振り返るとともにとともに、項目毎に平均点を提示し、平均点が3．５以下の項目は、重点項目として共通理解する。	A	・学力向上アクションプラン10項目の平均点３．５ポイント以上の職員80%には届かなかったが、県学調の指導ポイントを共通理解することで目標に近づいてきた。今後も継続することで次年度につなげたい。	A	・学力の程度も平均以上であり、問題があれば学校現場で十分な連絡・協議・検討がなされていると考える。	学力向上
	○学習内容の定着に向けた主体的で分かりやすい授業の実践と家庭学習の確立	○児童司会に取り組み「クラスの友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と回答した児童80%以上	・「授業づくりのステップ1･2･3」を踏まえ、全教科半分以上の時間で、話し合う活動を設定。	A	・中間報告と比較して1%程上積みできたが、学力向上アクションプランで「グループによる課題解決学習」の平均値が4ポイント中３．１ポイントと他の項目と比較しても低いので今後も継続した取り組みを必要とする。	A	・妥当な目標を立て、取組が行われたと思う。	学力向上
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳や人権教室に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童80%以上	・月１回おひさま朝会の実施 ・人権擁護委員による人権教室の実施 ・地域の方と連携した体験活動の実施 ・人権・同和教育に関する校内研修等の実施	A	・道徳や人権教室に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童94.5% ・引き続き、月１回おひさま朝会の実施。 ・いじめ問題への対応に係る校内研修の実施。	A	・他者への優しさ等の豊かな人格の形成、人権への理解のために様々な取組が行われており、目標は十分達成できている。 ・西表島上原小学校との交流は、相手のことを思いやる心の育成ににとって、とてもよい取組だったと思う。	人権・同和教育担当 道徳教育推進教員
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等（いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等）について組織的対応ができていると回答した教員80%以上	・年１回（６月）にQUアンケートを実施 ・学期に１回生活アンケートを実施 ・定期に実施している「ともだちアンケート」後の担任による丁寧な聞き取りの実施。	A	・いじめ防止について組織的な対応ができていると回答した職員１００%。早期対応により深刻ないじめ事案はなく、人間関係が理由による欠席児童がいなかったことが成果としてあげられる。 ・アンケート後の丁寧な聞き取りと職員間での共有を継続していくことを次年度へつなげたい。	A	・高学年になるほど理解が深まり、早期対応がなされているため、大きな問題もない。 ・いじめの未然防止・早期発見のために様々な取組が行われており、目標は十分達成できている。	教育相談 生活部
	◎児童が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童80%以上	・児童の資質・能力を育む授業作りについての職員研修の実施。 ・実行委員会形式による学校行事の計画・実施や、委員会活動、クラブ活動、係活動において主体性を育む活動を仕組む。	A	・アンケートで肯定的な回答をした児童は中間評価に引き続き、目標を達成できている。 ・事前事後の指導を含めての、実行委員形式の学校行事への取り組みを次年度も継続していきたい。	A	・児童の主体的な取組を助長し、創造力を高める指導がなされており、高学年になるほど、自ら主体的に活動し、下級生の指導・世話などができている。	特活部
●健康・体つくり	❶「運動習慣の改善や定着化」 ❷「望ましい生活習慣の形成」	❶児童アンケート「元気に運動や遊びをしている」と回答した児童95%以上 ❷生活振り返りアンケート「何時ごろ寝ましたか」の回答に対して理想の時間に寝た児童　85%以上	・体育的行事や縦割り活動を通して、「運動が大好きな子ども」を育てる。 ・運動能力向上につながる動きや遊びを職員間で共有したり、授業の中で児童に紹介したりして、休み時間にも取り組めるような環境を提供する。 ・授業において睡眠の大切さを伝えるとともに、生活振り返りアンケートを定期的に実施し、児童の意識を高める。 ・家庭に対して、特に週末の生活（就寝時間）について呼びかける。	B	・生活振り返りアンケート「夜の9時～10時には、寝ていますか」では92%で理数値に近づくことができた。 ・児童アンケート「元気に運動や遊びをしている」については、90%とおおむね達成できている。 ・外で元気に遊ぶ児童とそうでない児童の二極化を感じる。色々な体育行事を通して体を動かすことの楽しさを感じさせたり、運動の習慣を身につけさせたりしていきたい。 ・新型コロナウイルスの影響で外出が減り、家で過ごすことが多くなってきている。そのことが原因で、スマホやゲームの依存に繋がっていると考える。	A	・新型コロナウイルスの影響で、体育的行事等の在り方、活動内容が制限される中、内容の見直し検討により、体育大会・マラソン大会等が実施されたことで。目標は十分達できている。	保体部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・毎週金曜日を定時退勤日とする。 ・月平均45時間以内の勤務を意識し、タイムマネジメントの習慣化を図る。	A	・業務のバランスやタイムマネジメントの状況を見ながら、簡素化できるところを見つけて実行したり、事務処理量を減らす工夫をしたりする等、できるところから時間外在校等時間の上限、月45時間を遵守することについての推進に取り組んだ。その結果、肯定的な回答をした職員は100%にまで高まった。	B	・目標に向かって具体的な取組を検討し、実施されていた。ただ、取組項目が多岐に渡っており、更には学校教育の充実を含め、大変な事務量と考える。合理的な改善が必要。	教務部

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○開かれた学校	○地域人材の活用、地域での体験活動の推進	○地域の方々から見た児童の活動に関して肯定的な回答80%以上	・地域からゲストティーチャーを積極的に招き、体験活動を行なう。 ・地域の方との交流の場を設け、学習の成果や思いを伝える。	A	・今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、地域の方を招いてのサンキュー会を催すことはできなかったが、代わりにお礼の手紙や気持ち を込めたプレゼントや学びの足跡が分かるように制作したパンフレットを渡すことで、感謝の気持ちを伝えることができた。受け取った方からは、喜びの声が多く上がり、児童にとって益々大きな励みとなった。	A	・HPが子どもたちの学校での様子がとてもよく分かる内容だった。また、回覧板では、毎月厳木小だよりが回ってきて手に取って見ることができるため、子どもたちのことが十分伝わってくる。今後もさらに楽しめる内容を期待している。 ・農業作業・各種技術習得者等、地域の方や組織との多種多様な交流がなされており、目標は十分に達成できている。	教務部
○校内研究・職員研修の充実	○教員の専門性と意識の向上	○外国語教育・特別活動の進め方に関する専門性が向上した教員80%以上	・外国語に関する職員研修や学年部での授業研修を行う。 ・学級活動の進め方に関する職員研修、教材・教員の作成と活用を行う。	A	・学校評価アンケートにおいて、外国語教育・特別活動の進め方に関する専門性が向上した教員が92%で、目標数値を達成した。 ・校内研究では、講師招聘研修の中で指導助言を頂いたり、継続してミニ研修を行ったりしたことで教科化に伴った外国語教育に関する専門性が向上した。	A	・妥当な目標を立て、取組が行われたと思う。	研究主任・副主任 特別活動主任
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員80%以上(アンケートで)	・特別支援に関する研修会の実施（夏休み） ・ケース会議の開催、情報共有 ・外部機関との連携 ・特別支援教育の情報や資料の提供	B	・特別支援に関する専門性が向上した教員が93.7%(アンケートで)だった。 ・特別支援委員会では、心にとどおく子について、全職員で共通理解を図ることができ、みんなで子どもたちを育てようという意識をもつことができた。 ・SCやSSWとの連携も密に行い、専門的立場からの助言をいただきながら、個別の支援に取り組んだ。	A	・妥当な目標を立て、取組が行われたと思う。	特別支援教育担当

●…県共通　○…学校独自　◎…志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・新型コロナウイルスの影響で、随時更新される「新しい生活様式」に則った対応を迫られる中、模索しながら進める教育活動であったが、「どう工夫して行うか」を中心的柱に据え、様々な対策や工夫をしながらすどもたちにとっての「今年しかないこの一年」を実りあるものにするために、みんなで知恵を出し合いながら進めてきた。そんな状況であったからこそ前例踏襲ではなく、新たに見えてきた改善し得る点、別の方法や考えも新たに加わり、その分意味あるものとなっていった。正に「ピンチはチャンス」であり、固定観念に捕らわれない、現実に合った教育活動を柔軟に創り上げる大きなきっかけとなる一年となった。 ・学校を教職員主導で動かすのではなく、教職員は黒子となり、いかにも児童自らが動かしているように意識をもたせることで、学校に活気があふれ、児童の自信に繋がっているように思う。本校はその体制ができており、年度末に近づくと、特に5年生が「次は自分たちが学校を動かす番だ」という意識を強くもつ。この体制は、今後も大事にしたい。 ・校内研については、3年間外国語教育に取り組んできた。今年度は新学習指導要領にあわせて評価の研究を中心に取り組み、成果をあげた。来年度は、これを土壌にして更に研究を深め、指導力向上に繋がるテーマを設定して行っていきたい。 ・特別支援教育を大きな課題として、全ての児童の実態に応じた指導・支援のできる体制を模索してきた。各専門機関との連携も密に行いながら進めてきたことで、よりよい方向に向かっている。全児童・保護者の期待に応えられるような教育活動の在り方を更に探っていきたい。